

森下町 金屋町 裏金屋町 大衆免中通リ 同片原町 同
井波町 同龜淵町 同七曲リ 同堅町 同横町 立川町
平折町 上牧町 中牧町 下牧町 馬場一番丁 同二番丁
同三番丁 同四番丁 同五番丁 同六番丁 東馬場町 小
橋町 水車町 浅野町 下浅野町 浅野新町 梅澤町 上
中島町 下中島町 御仲間町 森山町一番丁 同二番丁
同三番丁 同四番丁 同五番丁

以上

右は維新後、改正の町名なり。但し明治四年四月戸籍編成に付、市中町名取調べの際、從來の町名を改革し、或は合併し或は分離、或は改稱し、或は文字を變換するなどの類頗る多く、河南町の古名を廢して片町へ編入し、卯辰町の古名を廢して森下町へ合併するの類、及び法船寺町を寶船路町とし、御坊町を五寶町とし、或は池田屋小路の小名に據りて鐵炮町等の數町を池田町と名付け、黒梅屋橋の名に據りて胡桃町の町名を立て、或は釼先辻の名を賢坂辻とするなどの類多く、古實に違へるものなきに非ず。又各町に呼び來る小路の小名をば廢して、向寄りの町へ隸すといへ

ども、新堅町の山田屋小路、木倉町の大藪小路、材木町の小玉小路、榮町の石屋小路などの小名をば、其の儘町名となしたるなどの事もあり。實に有司の不穿鑿といふべし。

金澤古蹟志卷二

城郭概説

○府城來歴

金澤城は舊名尾山城と云ふ。當城は舊金澤藩加賀能登・越中三州の領主前田家の居城にて、藩祖贈從一位前權大納言菅原利家卿、正親町天皇の御世天正十一年四月居城と定められしより、十四世從三位慶寧卿が、明治二年六月加能越三州の封土を奉還し、同年冬十一月城地退去に至り、曆數凡そ二百八十七年の間、藩主世代十四世の居城たり。世々仁政を以て封内を治め、國民も亦仁政に服從して泰平なるが故に、藩祖以來當城へ敵對せし事もなく、凡そ三百許年藩屏の任を守り、世々壘石を修築し、壕塹を穿ち、塀柵樓門等の修繕は勿論、武器・糧鹽等を庫倉に貯へ、武備充盈して大藩の威儀を示し、城内の殿閣も亦廣大にして、其の莊嚴實に善美を盡せしかど、明治四年七月廢藩置縣の御發

令に付き、同年八月各府縣城郭共悉く兵部省の所轄と成り、不要の殿閣庫倉を毀ち、城郭稍一變せり。同五年二月兵部省を改めて陸軍省とし、同六年一月皇國中鎮臺を改置ありて六鎮臺に定められ、營所を金澤に置かる。依つて金澤城は尾張名古屋鎮臺の分營となし、兵隊を爰に置かれ、同年四月廿五日陸軍大尉藤堂高矩、名古屋鎮臺より歩兵一小隊を率ゐて初めて此の營所に到着し、夫れより逐次兵隊を繰り込み、數大隊の歩兵爰に屯集するを以て、從來の殿閣等不要のヶ所は追々取毀ち、且明治九年四月本丸等の太鼓塀をも悉く取拂ひ、柵門も過半取毀ちたるより、城郭の体裁頗る破壊せられたり。殊に同十四年一月十日の曉天第二大隊の屯所より出火し、二、丸の舊殿閣悉く焼亡せしにより、鶴丸・三丸へかけ更に營所を建築せらる。故に從前の郭内亦一變して、其の体裁舊藩の居城と甚だ異なる如く成りたり。又壕塹も舊藩中は修理方嚴重にて埋まる事もなく、甚だ清潔なりしかど、今は不要物に屬しけん、修理の事なき故に追々埋まり、白鳥堀・守宮堀の兩塹共に全く芦原に等しく、内郭の塹の中には既に埋りたるものとありと